

●子どもが自主的に遊ぶ (Child initiative)

子どもが自主的に遊ぶためには、保育環境が安心して遊べること、子どもが情緒的に守られていることです。子どもの情緒的な安定感は、子どもの探索意欲や積極性に大きく影響すると専門家は言います。いつも変化しない(時にはわずかに違う)保育室で遊びの継続性が守られます。



●保育者の積極的な支援 (Teacher initiative)

子どもの自主的な遊びは大切ですが、しばしば子どもは同じことだけを繰り返し、新しいことや自信のないことには取り組みません。それ故に、保育者の支援が必要ですが、保育者が行う支援は、まねをさせて教えることではなくて、まず、それぞれの子どもが持っている適切な発達水準に到達させることです。遊びが準備されていること、一人ではなくて共同的に学べる場所(コーナー)をデザインすることです。



●心理的愛着 (Psychological nearness)
=教育的な寄り添い (Educational nearness)

登園してきた乳児におしゃぶりをくわえさせ、10分間ごとの唾液から、そこに含まれる副腎ホルモン（コリチゾール）の量を調べた結果、子どもは毎日登園してくる保育園であっても不安感があると、ケルン大学（ドイツ）精神科医アネッテ教授がいます。これらの不安感は、従来の説でいわれてきたような母親と「分離」される不安感ではなくて、家庭から保育園という場の「移行」に伴うものだと説明しています。母子間の心理ではなくて、保育のシクミが重要だという意味です。しかし、保育園での受け入れは、母親が家庭で行うような密着した母性愛的ではなくて、保育者と子どもが心理的なキズナで結ばれた愛着が必要です。



●距離感を取る (Psychological distance)
=教育的な距離感 (Educational distance)

子どもは受け入れられている安心感から、自ら探り学び始めるのですが、次第に、現実的な目に見える事柄から、まだ起こっていないこと、目の前にない事柄を理解する抽象的な考え方が求められます。保育室に遊びが準備されていること、視覚的に遊び方や遊びの流れが示されている環境が求められています。



〈保育者が積極的に遊びを指導する〉